

# 西東京市 教育計画策定のためのアンケート調査 報告書 (概要版)

I	調査の概要.....	1
II	調査結果概要.....	3
1	学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・青少年）.....	3
2	部活動について（中学生）.....	4
3	学校で困っていること（小学生・中学生）.....	5
4	学校に行きたくないと思ったこと（小学生・中学生）.....	6
5	登下校時に危険な思いをしたこと（小学生・中学生）.....	6
6	タブレットを使った授業で良かったこと（小学生・中学生）.....	7
7	運動すること（小学生・中学生）.....	7
8	家でお手伝いしていること（小学生・中学生）.....	8
9	携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生）.....	9
10	1ヶ月平均の本を読む量（小学生・中学生）.....	10
11	相談相手の有無（小学生・中学生）.....	10
12	自分に自信のもてる場所（小学生・中学生）.....	11
13	地域の方との関わり方（小学生・中学生）.....	11
14	地域の子どもたち（小・中学生）と接する機会（一般市民）.....	12
15	生涯学習のイメージ（青少年・一般市民）.....	12
16	生涯学習の必要性（青少年・一般市民）.....	13
17	生涯学習を行うにあたって困っている点（青少年・一般市民）.....	13
18	リカレント教育等の今後の学習活動（青少年・一般市民）.....	14
19	学びたいときに学べるようにするための取組（青少年・一般市民）.....	14
20	公民館を利用しない理由（青少年・一般市民）.....	15
21	図書館サービスの認知度（青少年・一般市民）.....	16
22	西東京市への愛着度（青少年）.....	16
23	子ども一人ひとりに応じた支援の認知度（青少年・一般市民）.....	17

令和5年3月

西東京市教育委員会



# I 調査の概要

## 1 はじめに

国は「次期教育振興基本計画について（答申）」（令和5年3月8日 中央教育審議会）の中で社会の現状や変化として、「新型コロナウイルス感染症の拡大」や「VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）」、「少子化・人口減少や高齢化」、「グローバル化」、「地球規模課題」、「DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）」、「共生社会・社会的包摂」、「精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）」などを挙げております。

また、第3期教育振興計画期間中の課題として「コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞」や「不登校・いじめ重大事態等の増加」、「学校の長時間勤務や教師不足」、「地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化」などを挙げております。

以上のような状況を踏まえ、本アンケートでは平成29年度のアンケート内容を基本に、新たに「タブレット」や「SNS」などのGIGAスクールに関する項目、「お手伝い」などの家庭の状況に関する項目、「生涯学習」や「リカレント教育」などの社会教育に関する項目を新設し、実施しております。

本アンケート結果を踏まえ、今後の計画策定を進めていきます。

## 2 調査の目的

次期「西東京市教育計画（計画期間：令和6年度～令和10年度）」を策定するにあたって、市民の教育に関する考えや意見を聞き、調査結果を計画策定を進める上での基礎資料として活用するために調査を実施しました。

## 3 調査対象

小学生調査：全市立小学校の4年生及び6年生（各学年1クラス）

中学生調査：全市立中学校の2年生（学校規模に応じて3～4クラス）

青少年調査：市内にお住まいの平成14年9月3日～平成19年4月1日生まれの方

一般市民調査：市内にお住まいの20歳以上の方

## 4 調査期間

令和4年11月4日（金）から同月22日（火）まで

## 5 調査方法

小学生・中学生調査：学校を通じて一斉配布・一斉回収

青少年・一般市民調査：郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

## 6 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率	回収数
小学生調査	1,214 通	1,168 通	96.2%	1,169 通
中学生調査	1,130 通	1,021 通	90.4%	1,021 通
青少年調査	400 通	104 通	26.0%	1,314 通
一般市民調査	3,000 通	1,209 通	40.3%	

## 7 調査結果の表示方法

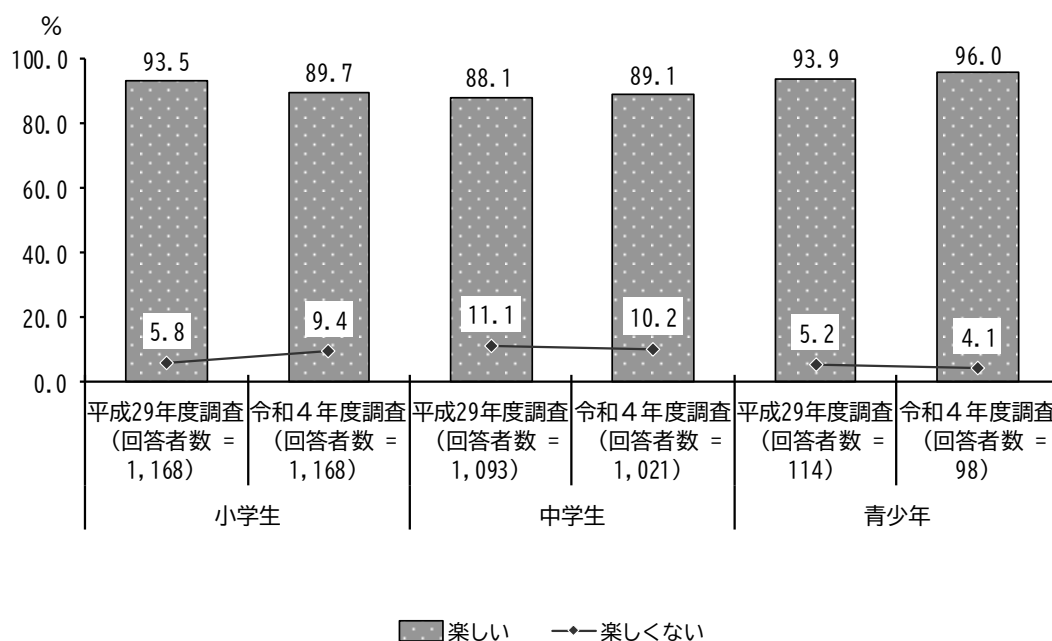
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な質問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答割合の合計は100%になりません。また、表題の指の表示のある項目については、「西東京市教育計画（平成31（2019）年度～2023年度）」の「5年後に向けての指標項目」となっています。

## Ⅱ 調査結果概要

### 1 学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・青少年<sup>(※)</sup>）指

学校を楽しいと思う児童・生徒の割合は、小学生 89.7%、中学生 89.1%、青少年 96.0%となっており、9割前後で推移しています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると小学生では、93.5%から89.7%へ減少しているものの、中学生では88.1%から89.1%、青少年では93.9%から96.0%と増加しています。



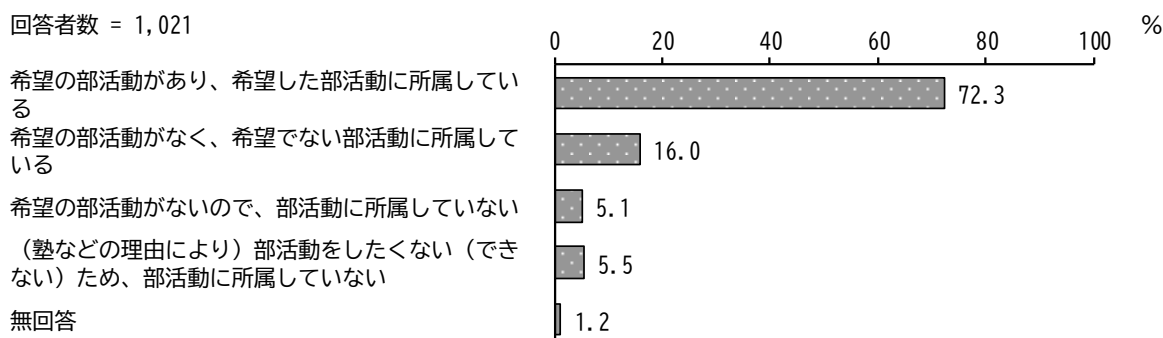
※楽しい=「とても楽しい」+「まあまあ楽しい」、楽しくない=「楽しくない」+「あまり楽しくない」  
※青少年調査のうち、「高校生」、「短期大学生・高等専門学校生」、「専門学校生」、「大学生」からの回答を集計しました。

## 2 部活動について（中学生）

### 【入りたいと思う部活動】

入りたいと思う部活動について、「希望の部活動があり、希望した部活動に所属している」の割合が7割を超えています。一方、「希望の部活動がなく、希望でない部活動に所属している」の割合が1割半ばとなっています。

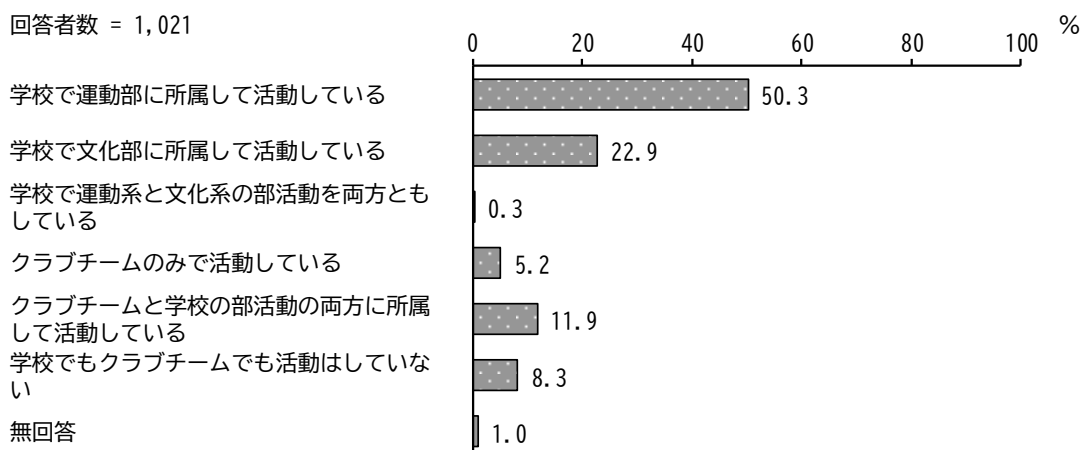
回答者数 = 1,021



### 【部活動やクラブチームで活動】

部活動やクラブチームで活動について、「学校で運動部に所属して活動している」の割合が約5割、「学校で文化部に所属して活動している」の割合が約2割となっています。また、「学校でもクラブチームでも活動はしていない」の割合が1割弱となっています。

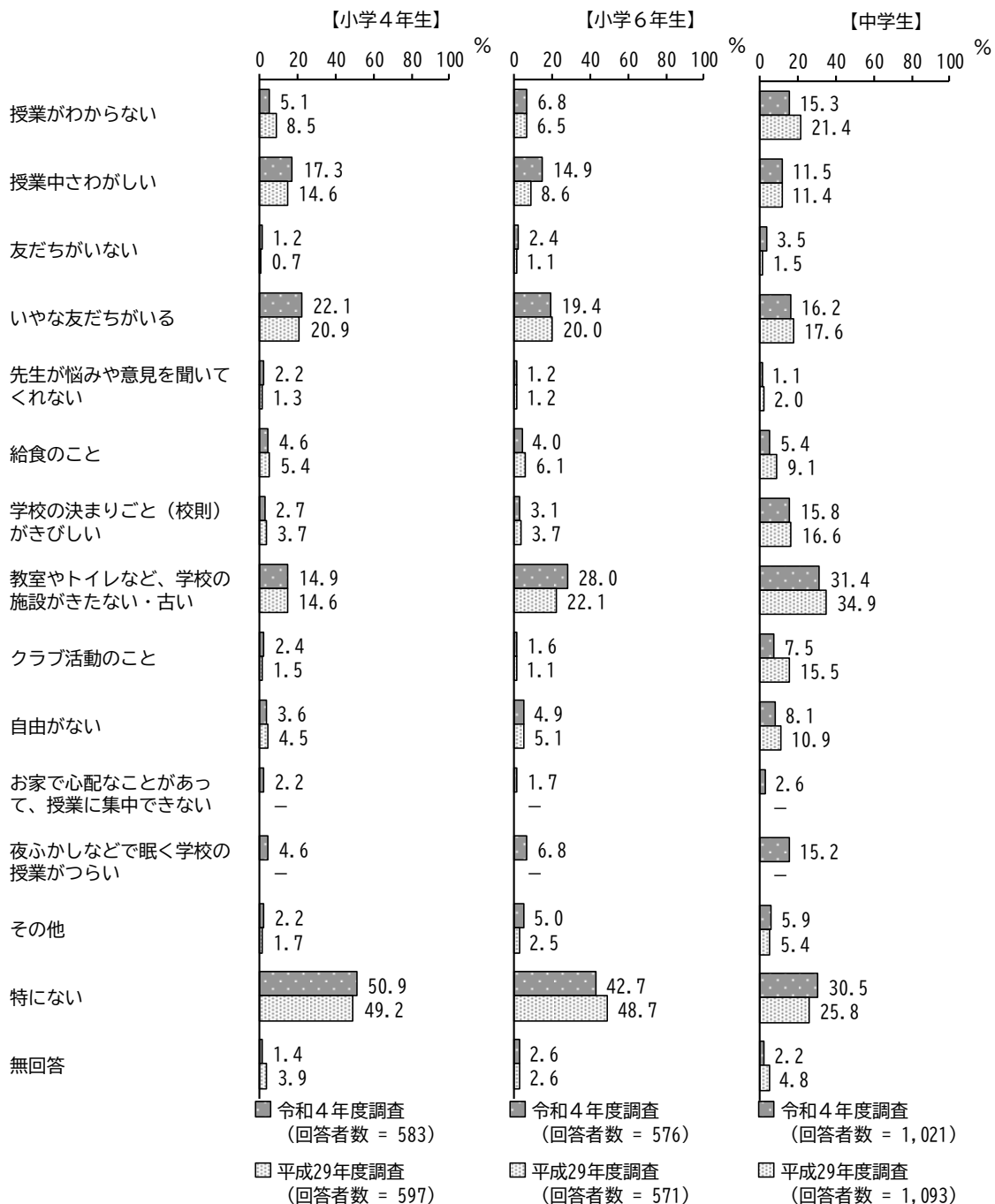
回答者数 = 1,021



### 3 学校で困っていること（小学生・中学生）指

学校で困っていることが「特にない」と回答した児童・生徒の割合は、小学4年生 50.9%、小学6年生 42.7%、中学生 30.5%となっており、小学生の約半数、中学生の約7割は何らか困っていることがあると回答しています。

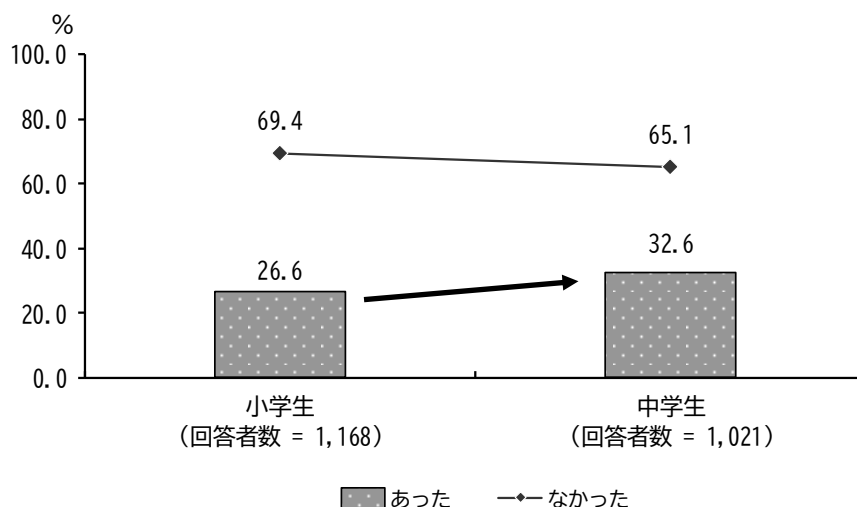
困っていることの上位の「授業中さわがしい」「いやな友だちがいる」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、中学生になると「学校の決まりごと（校則）がきびしい」「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」「夜ふかしなどで眠く学校の授業がつらい」の割合が高くなっています。また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると指標項目である「授業がわからない」の項目では小学4年生では8.5%から5.1%、中学生では21.4%から15.3%の割合に減少しているものの、小学6年生では6.5%から6.8%の割合に増加しています。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%になりません。

## 4 学校に行きたくないと思ったこと（小学生・中学生）

学校に行きたくないと思うことがあった割合は、小学生 26.6%、中学生 32.6%と学年が上がるにつれ、学校に行きたくないと思うことがあった割合が高くなっています。

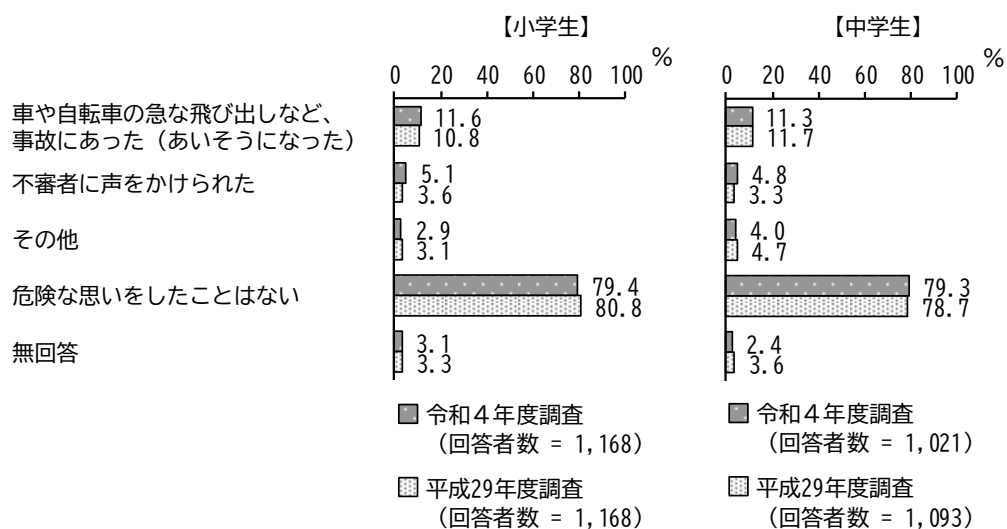


※あった = 「いつもあった」 + 「ときどきあった」、なかった = 「ほとんどなかった」 + 「なかった」

## 5 登下校時に危険な思いをしたこと（小学生・中学生）指

登下校時に危険な思いをしたことは「ない」と回答した割合は、小学生 79.4%、中学生 79.3%となっており、小学生、中学生の約2割は何らか危険な思いをしたことがあると回答しています。

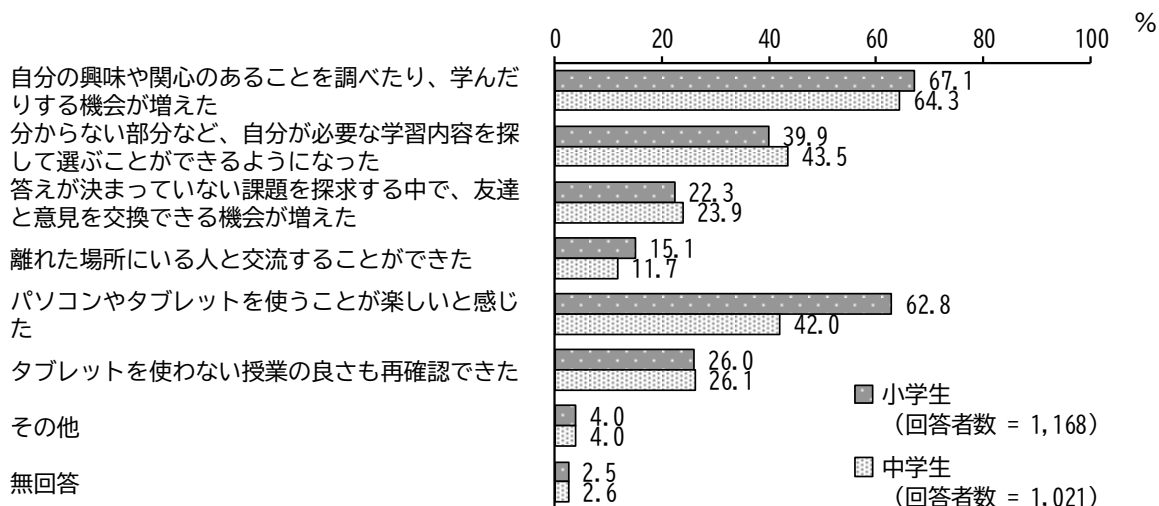
また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると「危険な思いをしたことがある」割合では小学生では17.5%から19.6%、中学生では19.7%から20.1%に増加しています。





## 6 タブレットを使った授業で良かったこと（小学生・中学生）

小学生、中学生ともに「自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」が約6割を占めています。また、小学生では「パソコンやタブレットを使うことが楽しいと感じた」も6割を超えています。

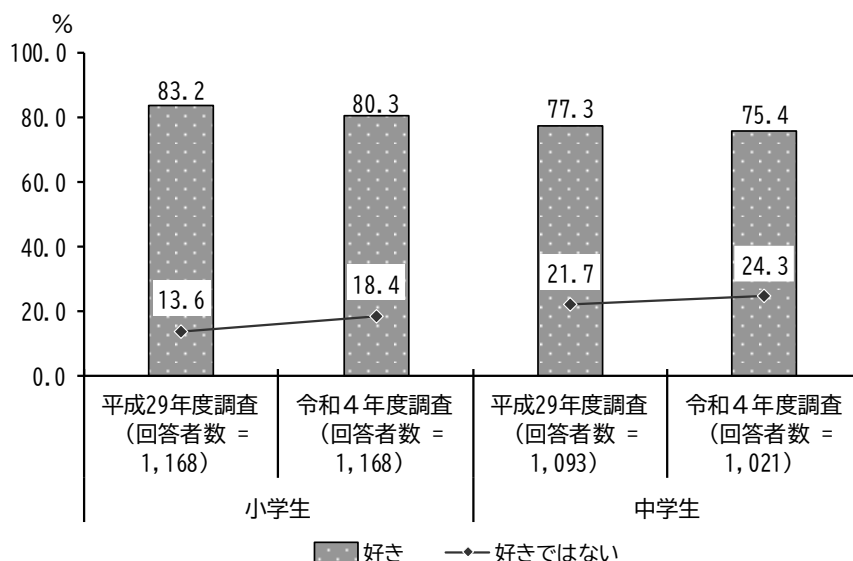


※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は100%になりません。

## 7 運動すること（小学生・中学生）指

運動することが「好き」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下しています。また、中学生では運動することが「好きではない」生徒が24.3%と約4人に1人の割合となっています。

また、運動することが「好き」と回答した割合について平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると小学生では、83.2%から80.3%へ減少しており、中学生でも77.3%から75.4%と減少しています。



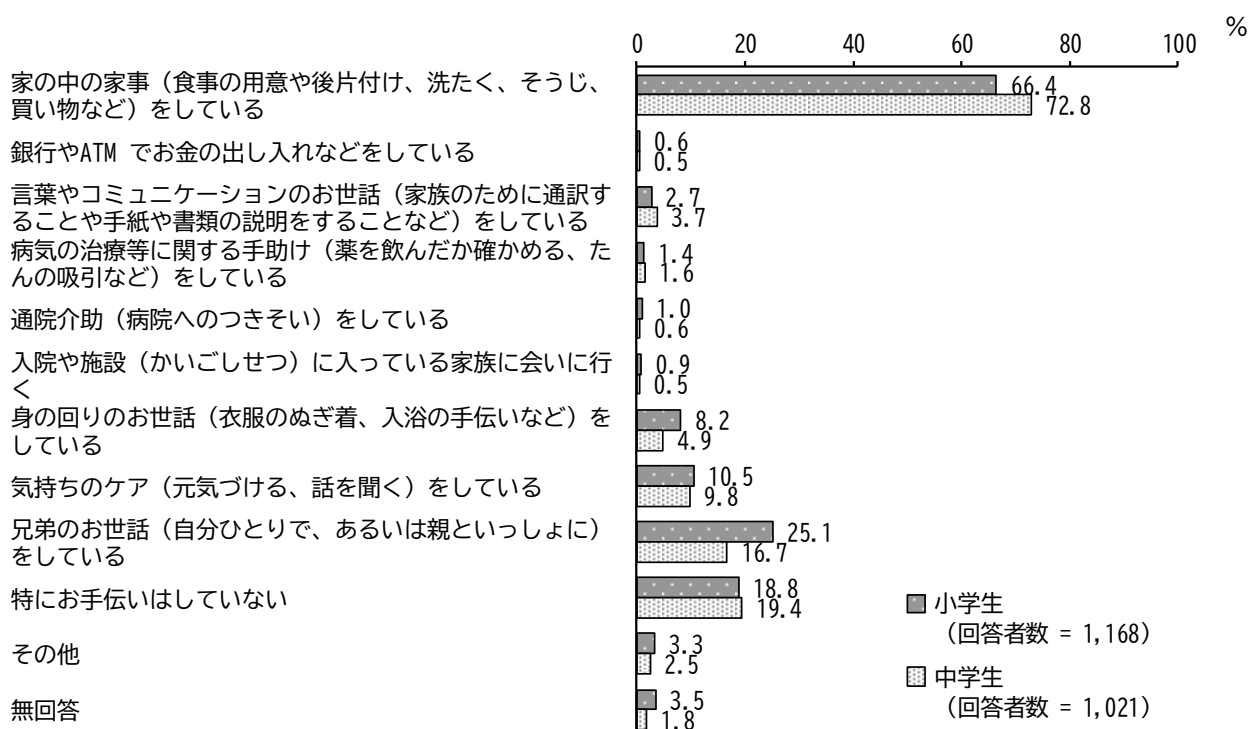
※好き = 「好き」 + 「どちらかといえば好き」、好きではない = 「あまり好きではない」 + 「好きではない」

## 8 家でお手伝いしていること（小学生・中学生）

小学生、中学生ともに約8割は何らかの手伝いをしています。小学生、中学生ともに「家の中の家事（食事の用意や後片付け、洗たく、そうじ、買い物など）をしている」の割合が高くなっています。また、中学生に比べ、小学生で「兄弟のお世話（自分ひとりで、あるいは親といっしょに）をしている」の割合が高くなっています。

	小学生 (回答者数 = 1,168)	中学生 (回答者数 = 1,021)
家でお手伝いしている割合	77.7 %	78.8 %

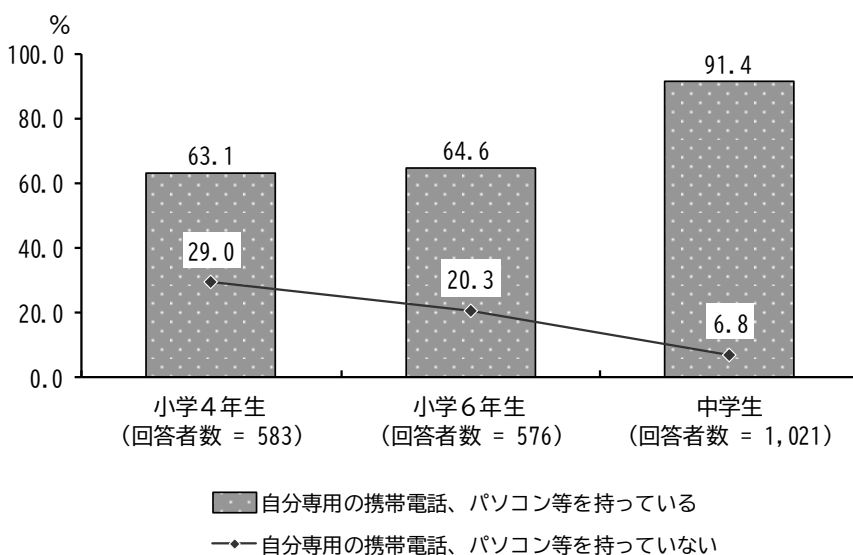
※「家でお手伝いしている割合」は、「特にお手伝いはしていない」と「無回答」を除いた割合。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

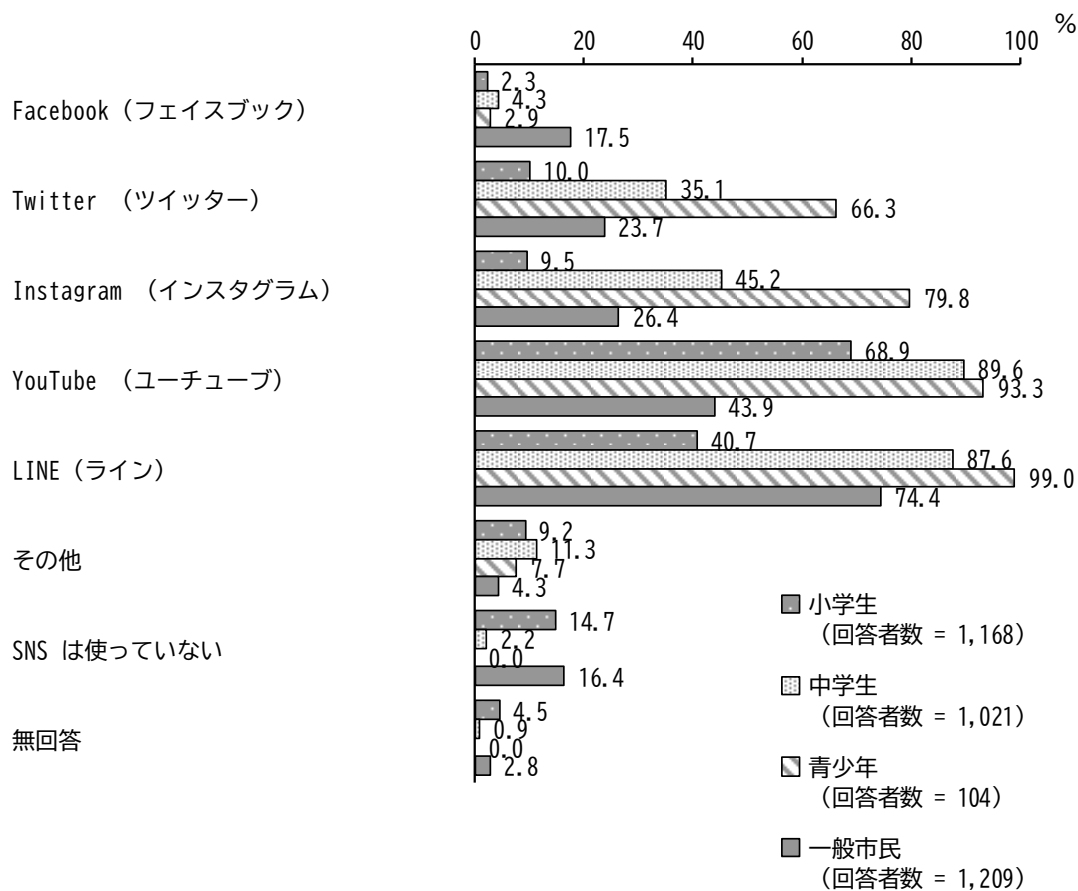
## 9 携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生）

自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている割合は、小学生で約6割、中学生では約9割となっています。



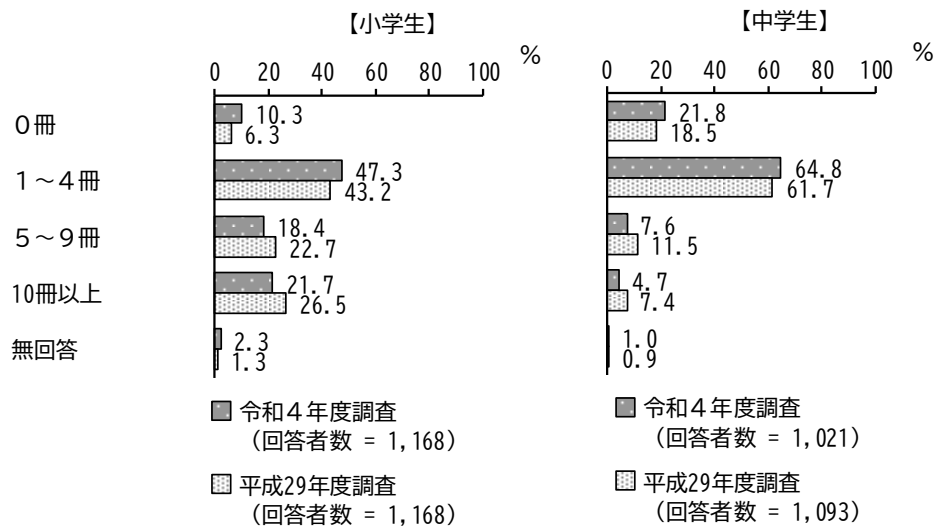
### 【普段使っている SNS】（小学生・中学生・青少年・一般市民）

普段使っている SNS の割合は、小学生、中学生では「YouTube（ユーチューブ）」の割合が最も高く、青少年、一般市民では「LINE（ライン）」の割合が最も高くなっています。



## 10 1ヶ月平均の本を読む量（小学生・中学生）指

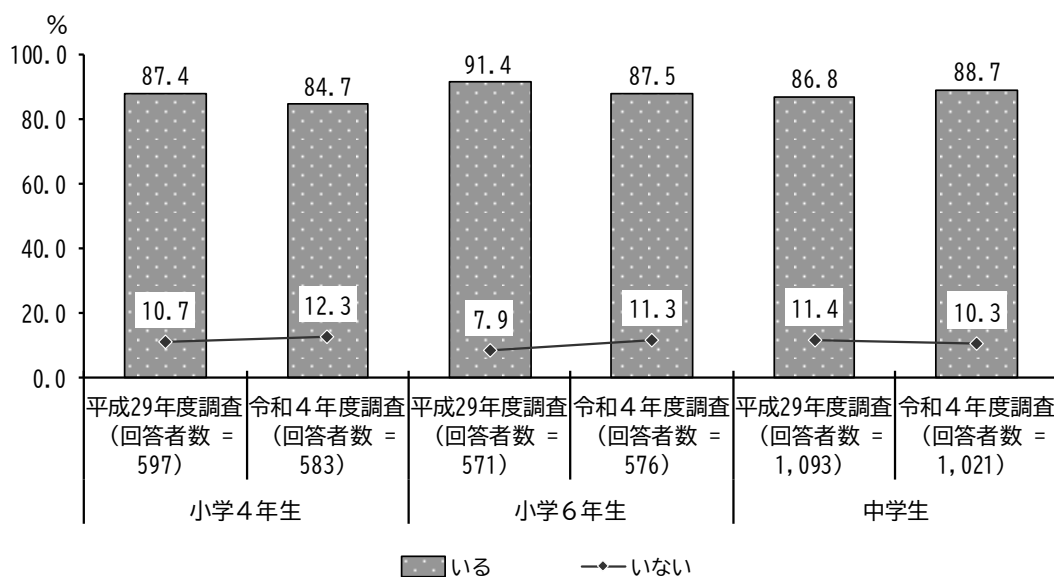
1ヶ月平均の本を読む量は、小学生より中学生の方が「0冊」の割合が高くなっています。また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると「0冊」の割合が小学生では、6.3%から10.3%に増加、中学生でも18.5%から21.8%に増加しています。



## 11 相談相手の有無（小学生・中学生）指

いやなことやつらいことがあったときに相談できる人が「いる」割合は、学年が高くなるにつれて高くなっており、中学生では約9割となっています。

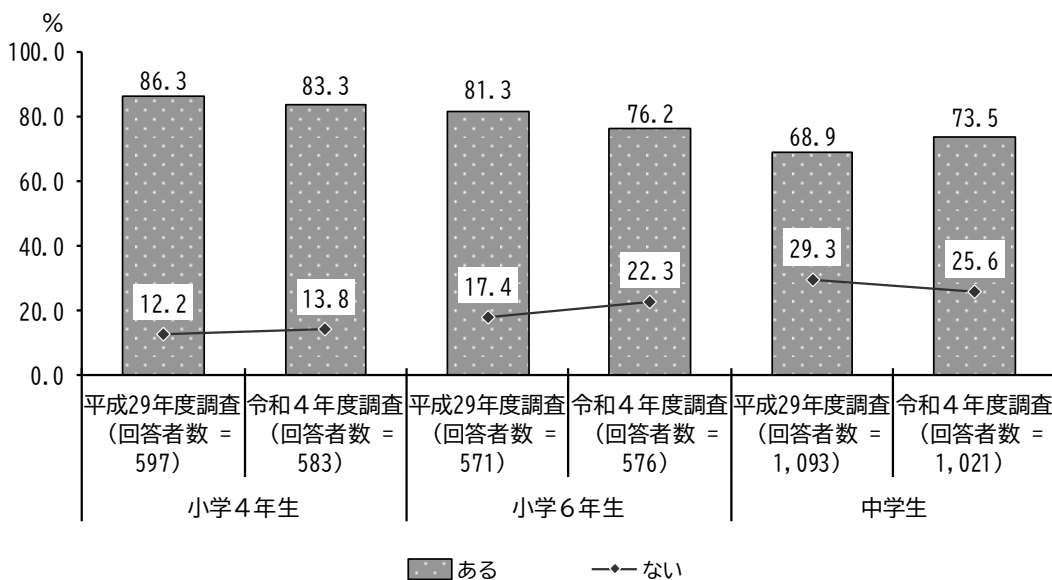
また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると小学4年生では87.4%から84.7%の割合に減少、小学6年生では91.4%から87.5%に減少、中学生では86.8%から88.7%の割合に増加しています。



## 12 自分に自信のもてるどころ（小学生・中学生）指

自分に自信のもてるどころが「ある」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下しており、中学生では自分に自信のもてるどころが「ない」生徒が2割半ばを占めています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると小学4年生では86.3%から83.3%の割合に減少、小学6年生では81.3%から76.2%に減少、中学生では68.9%から73.5%に増加しています。

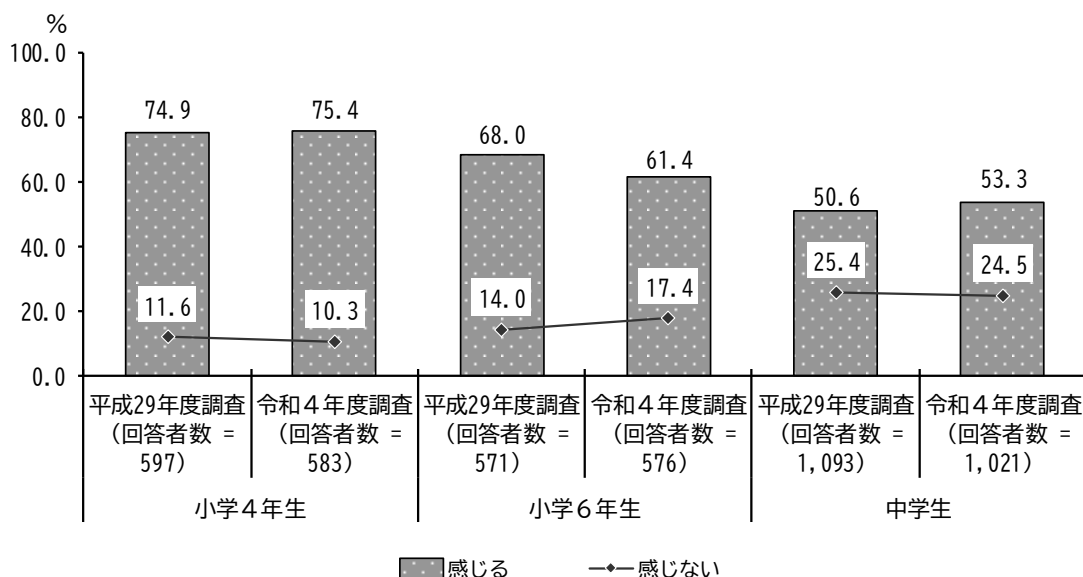


※ある = 「ある」 + 「どちらかといえばあると思う」、ない = 「ない」 + 「どちらかといえばないと思う」

## 13 地域の方との関わり方（小学生・中学生）指

地域の大人が自分たちを見守ってくれていると「感じる」割合は、学年が上がるにつれて低下しています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると小学4年生では74.9%から75.4%に増加、小学6年生では68.0%から61.4%に減少、中学生では50.6%から53.3%に増加しています。

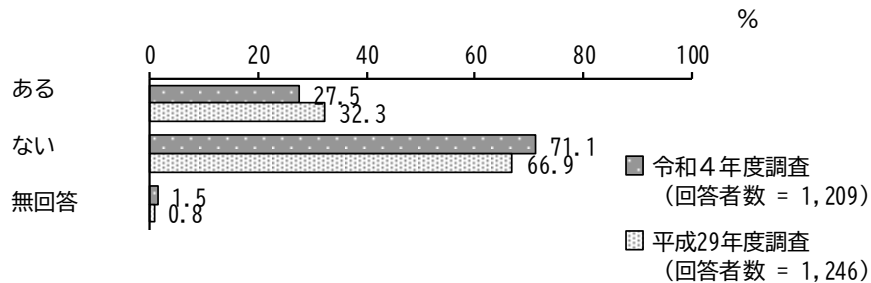


※感じる = 「感じる」 + 「ときどき感じる」、感じない = 「感じない」 + 「あまり感じない」

## 14 地域の子どもたち（小・中学生）と接する機会（一般市民）指

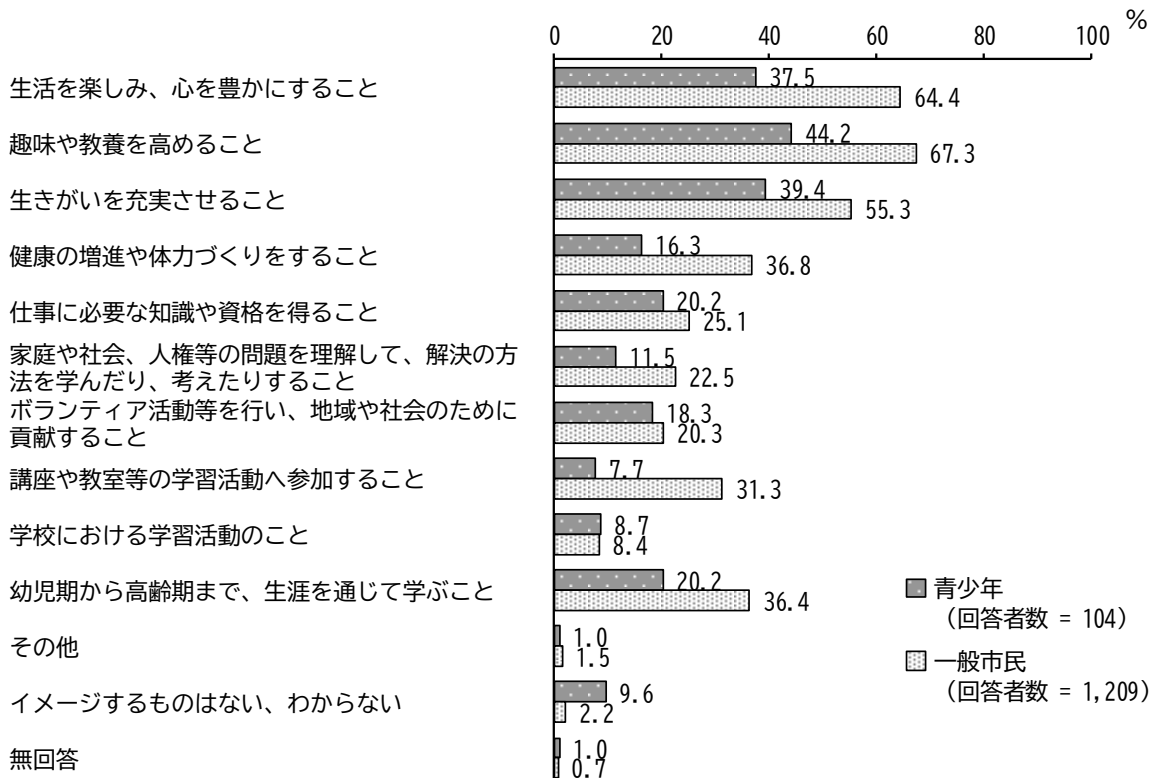
地域の子どもたち（小・中学生）と接する機会が「ある」は、3割近くとなっています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると地域の子どもたち（小・中学生）と接する機会が「ある」の割合は32.3%から27.5%に減少しています。



## 15 生涯学習のイメージ（青少年・一般市民）

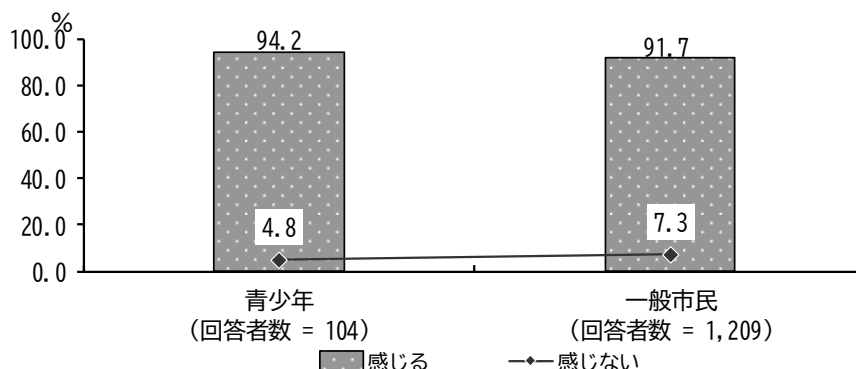
生涯学習のイメージとしては、青少年、一般市民ともに「生活を楽しみ、心を豊かにすること」「趣味や教養を高めること」「生きがいを充実させること」が上位となっています。また、一般市民では「健康の増進や体力づくりをすること」「講座や教室等の学習活動へ参加すること」「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」の割合も高くなっています。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

## 16 生涯学習の必要性（青少年・一般市民）

生涯学習の必要性を「感じる」割合は、青少年 94.2%、一般市民 91.7%となっています。

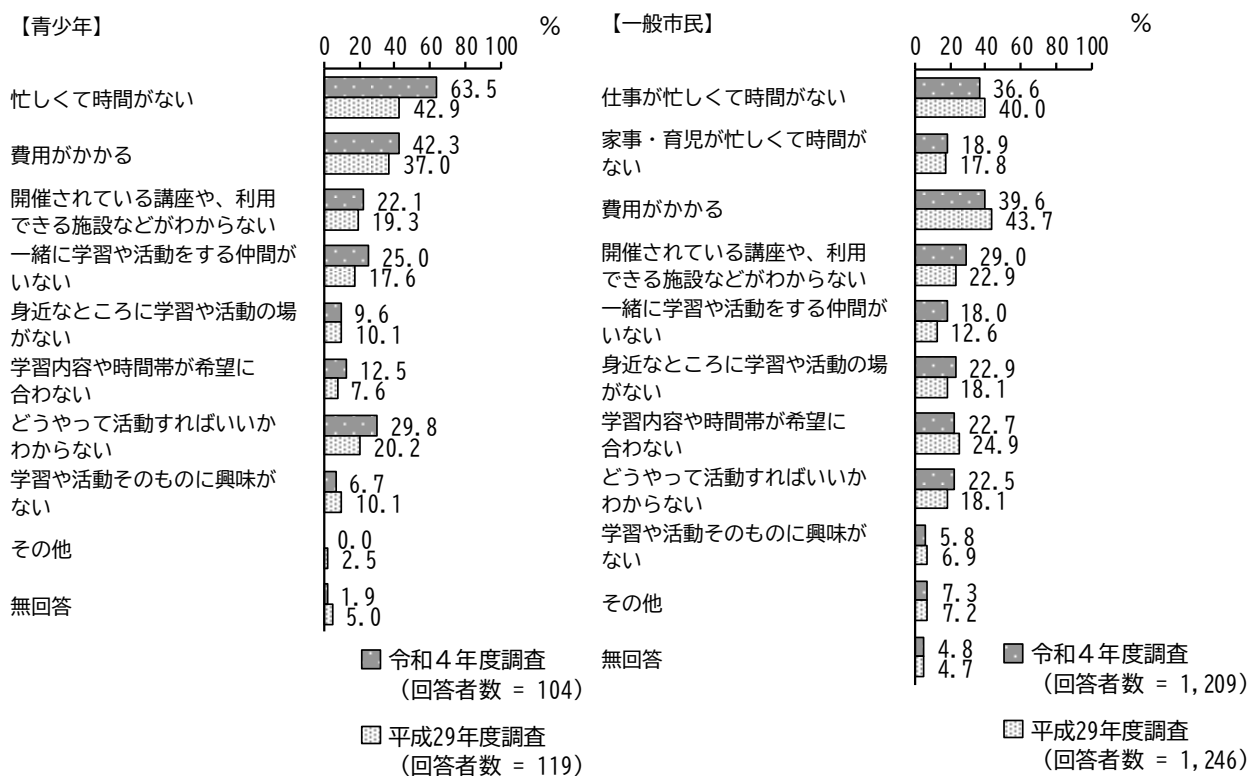


※感じる = 「強く感じる」 + 「どちらかといえば感じる」、  
 感じない = 「どちらかといえば感じない」 + 「全く感じない」

## 17 生涯学習を行うにあたって困っている点（青少年・一般市民）指

生涯学習を行うにあたって困っている点として多かったのは、青少年では「忙しくて時間がない」が6割を超え、「費用がかかる」が4割を超えています。また、一般市民では「費用がかかる」が約4割、「仕事が忙しくて時間がない」が3割半ばとなっています。

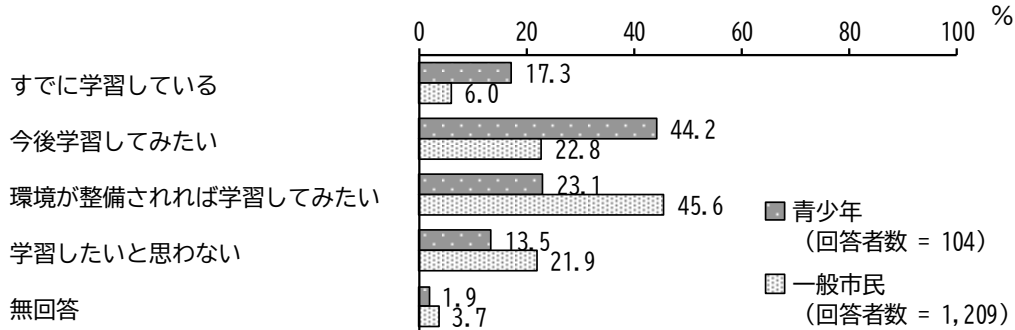
また、平成 29 年度調査と令和 4 年度調査を比較すると「開催されている講座や、利用できる施設などがわからない」と「身近なところに学習や活動の場がない」合計の割合は青少年で 29.4% から 31.7% に増加、一般市民で 41.0% から 51.9% に増加しています。



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

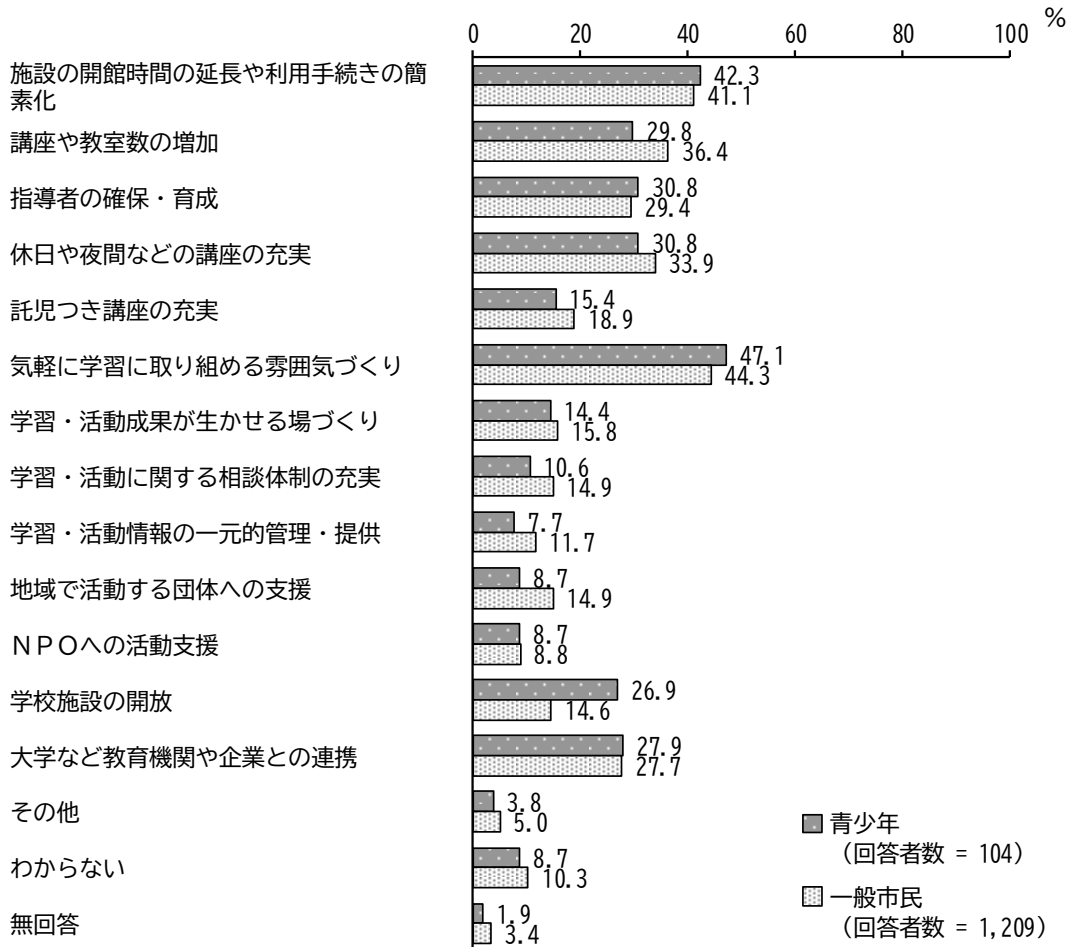
## 18 リカレント教育等の今後の学習活動（青少年・一般市民）

リカレント教育等の今後の学習活動について、青少年では「今後学習してみたい」の割合が最も高く、一般市民では「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が最も高くなっています。



## 19 学びたいときに学べるようにするための取組（青少年・一般市民）

学びたいときに学べるようにするための取組として、青少年、一般市民ともに「気軽に学習に取り組み始める雰囲気づくり」の割合が最も高くなっています。また、一般市民に比べ、青少年では「学校施設の開放」の割合が高くなっています。



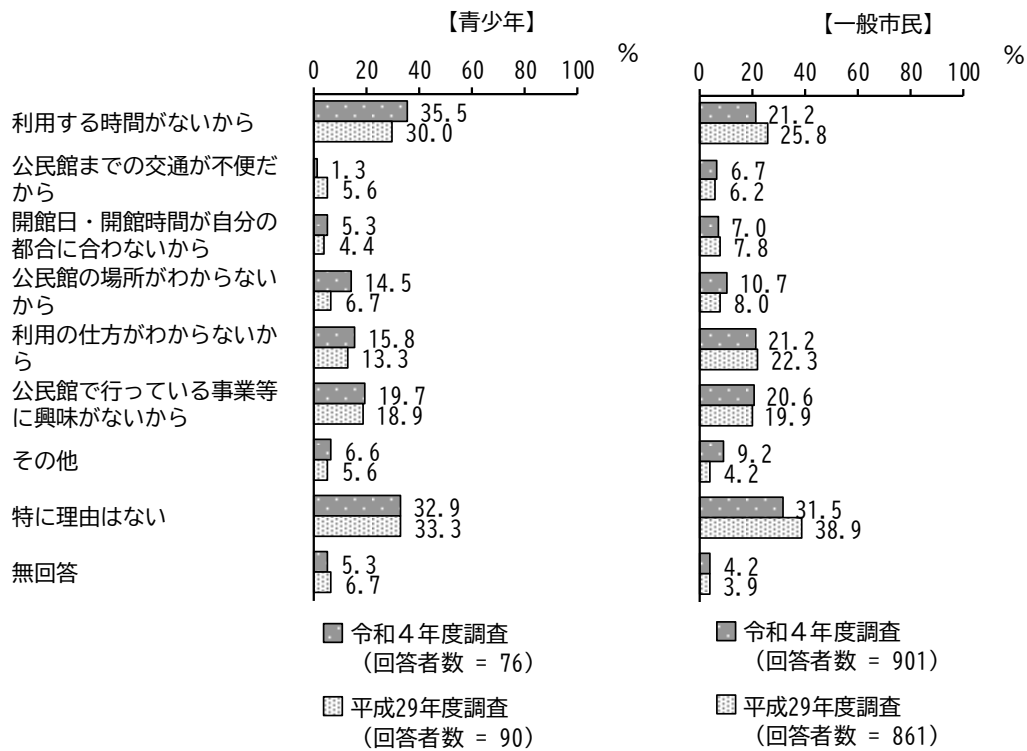
※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%になりません。



## 20 公民館を利用しない理由（青少年・一般市民）指

利用しない理由は「特に理由はない」のほかは、「利用する時間がないから」、「利用の仕方がわからないから」、「公民館で行っている事業等に興味がないから」の割合が高くなっています。

また、平成 29 年度調査と令和 4 年度調査を比較すると「利用の仕方がわからないから」の割合は青少年で 13.3%から 15.8%に増加、一般市民で 22.3%から 21.2%に減少しています。

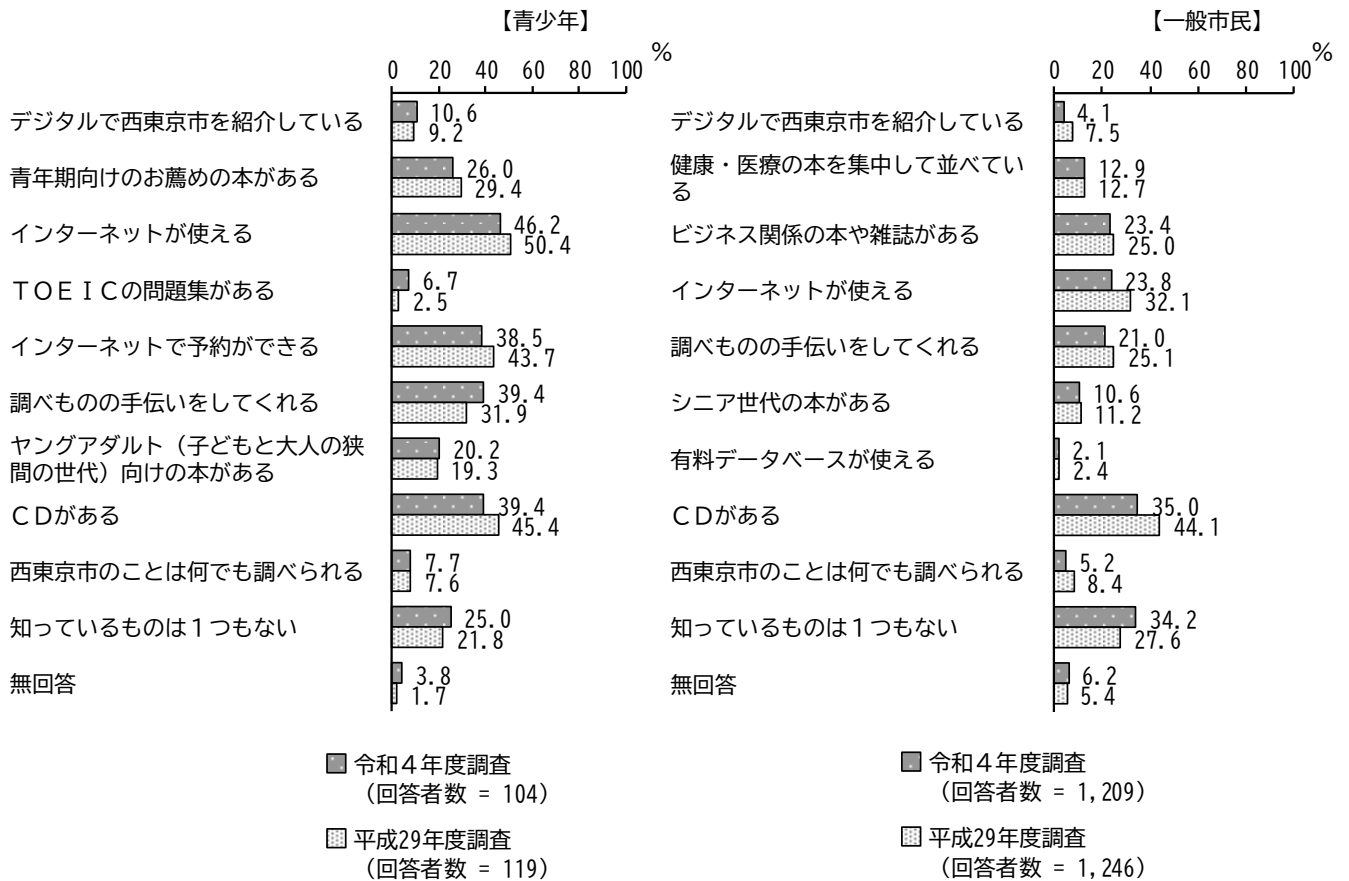


※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

## 21 図書館サービスの認知度（青少年・一般市民）指

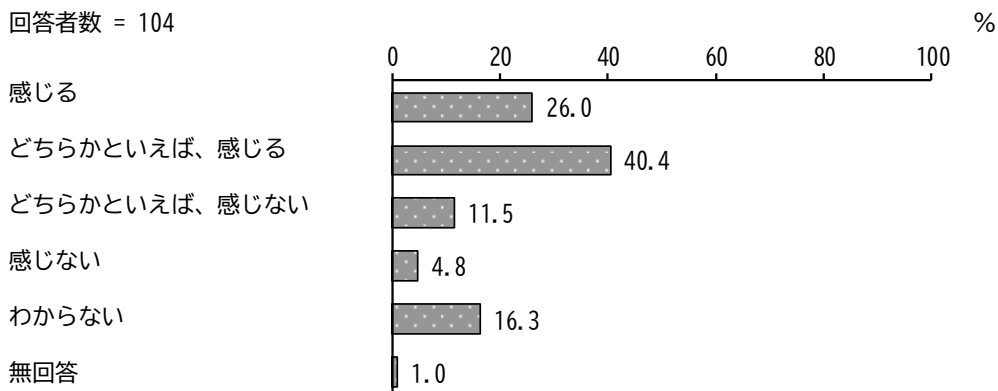
図書館サービスの認知度は、青少年では「インターネットが使える」の割合が高くなっています。また、一般市民では「CDがある」の割合が高くなっています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると「知っているものは1つもない」の割合は青少年で21.8%から25.0%に増加、一般市民で27.6%から34.2%に増加しています。



## 22 西東京市への愛着度（青少年）

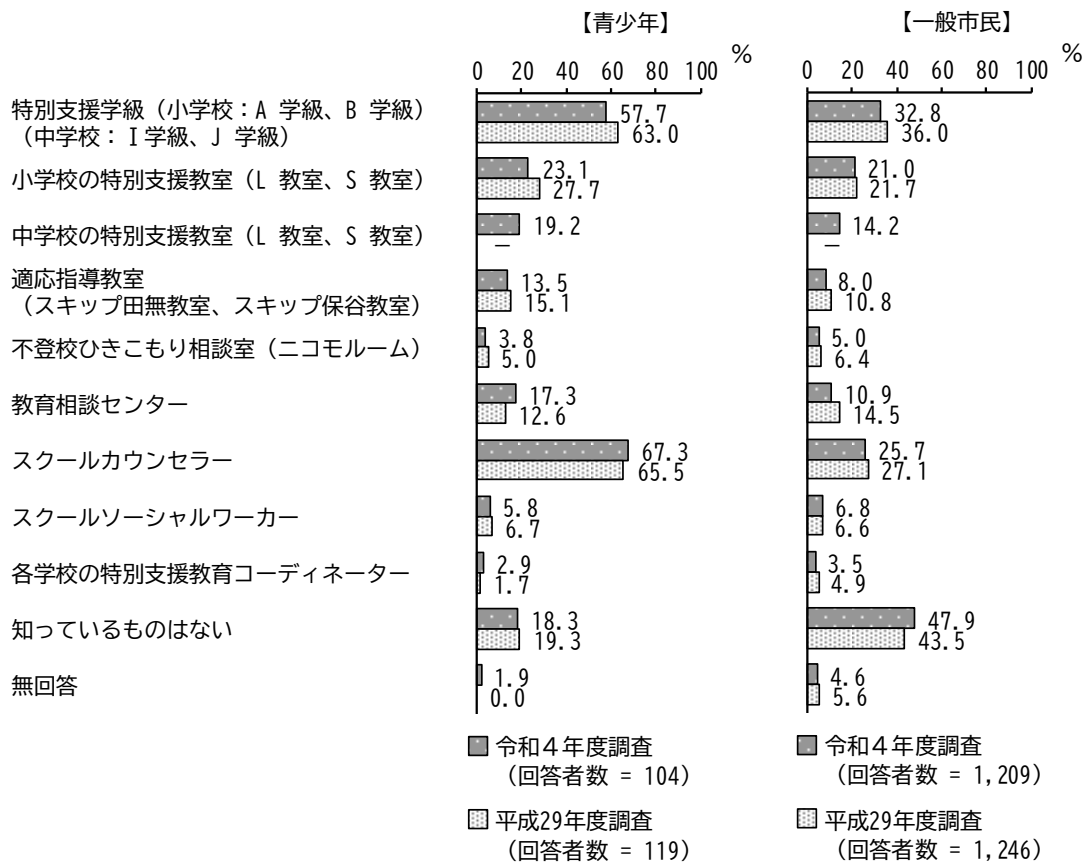
西東京市への愛着を感じている青少年の割合は、66.4%となっております。



## 23 子ども一人ひとりに応じた支援の認知度（青少年・一般市民）指

子ども一人ひとりに応じた支援の認知度は、青少年では「特別支援学級（小学校：A学級、B学級）（中学校：I学級、J学級）」「スクールカウンセラー」の割合が高くなっています。また、一般市民では「知っているものはない」のほかは、「特別支援学級（小学校：A学級、B学級）（中学校：I学級、J学級）」の割合が高くなっています。

また、平成29年度調査と令和4年度調査を比較すると「知っているものはない」の割合は青少年で19.3%から18.3%に減少、一般市民で43.5%から47.9%に増加しています。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

※「中学校の特別支援教室（L教室、S教室）」の選択肢は、平成29年度調査では「中学校の通級指導学級（K組）」でした。



西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告書  
(概要版)

発行日 令和5年3月

発行 西東京市教育委員会 教育部教育企画課  
西東京市南町五丁目6番13号(田無第二庁舎3階)

電話 042-420-2822(直通)